

FLORA bd500

HITACHI
Inspire the Next

ソフトウェアガイド

500X8

Microsoft® Windows® 7 編

マニュアルはよく読み、保管してください。
製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。
このマニュアルは、いつでも参照できるように、手近な所に保管してください。



2011年6月(初版)

重要なお知らせ

- 本書の内容の一部または全部を、無断で転載または引用することを禁止します。
- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容について万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- 本製品を運用した結果については責任を負いません。なお、保証と責任については保証書裏面の「保証規定」をお読みください。

登録商標・商標について

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
Intel、Celeron および Core は、Intel Corporation の登録商標または商標です。
Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。
i-フィルターは、デジタルアーツ株式会社の登録商標です。
その他、各製品名、各会社名は、各社の商標または登録商標です。

著作権について

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

© Hitachi, Ltd. 2011. All rights reserved.



はじめに

このたびは日立の FLORA bd500（以下、FLORA bd）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。このマニュアルは、クライアントモジュールの初回時の起動と、システムの動作が異常になったときの再インストールについて記載しています。

マニュアルの表記

□ マークについて

マニュアル内で使用しているマークの意味は次のとおりです。

通知	これは、人身傷害とは関係のない損害を引き起こすおそれのある場合に用います。
	FLORA bd の故障や障害の発生を防止し、正常に動作させるための事項を示します。
	FLORA bd を活用するためのアドバイスを示します。

□ 関連マニュアル

ユーザーズガイド：FLORA bd に関する内容を記載しています。

ご使用になる前に、「安全にお使いいただくために」を必ずお読みください。

□ オペレーティングシステム（OS）の略称について

本マニュアルでは、次の OS 名称を省略して表記します。

- Windows® 7 Professional 32 ビット版 Service Pack 1（SP1）適用済み 正規版（以下 Windows 7 または Windows）

サポート & サービスのご案内

困ったときには

□ お問い合わせ

Windows に関するインストールおよび各種設定項目などのお問い合わせについては、有償となります。

詳細は、次で紹介しています。

- ホームページアドレス
<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/service/index.html>
- メールアドレス
supportservice-soft@itg.hitachi.co.jp

□ 日立ソリューションサポートセンター

- FLORA bd サポートサービス
フリーダイヤル：契約締結後、別途ご連絡いたします。
受付時間 : 8:00 ~ 19:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

□ 最新情報の入手

最新のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェア アップデートプログラムなどを提供することがあります。この場合、次の Web サイトでご案内します。

- ホームページアドレス：
<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/flora/product/cb/index.html>

各アップデートプログラムの適用についてはお客様責任にて実施していただきますが、FLORA bd を安全にご使用いただくためにも定期的にアクセスして、最新のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェアへ更新いただくことをお奨めします。

目次

重要なお知らせ	iii
登録商標・商標について	iii
著作権について	iii
はじめに	iv
マニュアルの表記	iv
サポート & サービスのご案内	v
困ったときには	v
目次	vi
1 クライアントモジュールをはじめて使うときは	1
はじめて電源を入れるときは	2
電源を入れる	2
使用許諾契約に同意しよう	2
電源を入れ直す	5
電源を切る	5
電源を入れ直す	6
2 システムの運用と管理	7
ネットワーク構成	8
ネットワーク構成例	8
運用開始に必要な設定	9
Windows のネットワーク設定	9
ハードウェアのネットワーク設定	10
FLORA bd で IPMI を使用するには	12
IPMI のコマンド	12
WOL (Wake On LAN) の設定	13
3 ご購入時の状態に戻すには	15
準備する	16
この後の作業の流れ	16
一括セットアップする	17
付属のディスクを使った一括セットアップ	17

4 付属ソフトウェアについて	23
付属ソフトウェア	24
ソフトウェアの種類	24
ソフトウェアの個別セットアップ	26
5 制限事項と参考	29
制限事項	30
ブートパーティション	30
Windows RE	30
Windows Aero	30
ハイブリッドスリープ	30
休止状態からの起動	30

— MEMO —

A series of horizontal dashed lines for writing a memo.

1

クライアントモジュールを はじめて使うときは

この章では、クライアントモジュールにはじめて電源を入れたときの操作について説明します。

はじめて電源を入れるときは	2
電源を入れ直す	5

はじめて電源を入れるときは

はじめてクライアントモジュールの電源を入れるときは、Windows の使用許諾契約に同意して、Windows を使えるようにする必要があります。

電源を入れる

クライアントモジュールにディスプレイ / キーボードが接続されているか確認します。クライアントモジュールの電源スイッチを押すと、ディスプレイに [新しいアカウントのユーザー名と、コンピューターをネットワーク上で識別するためのコンピューター名を入力してください] 画面が表示されます。

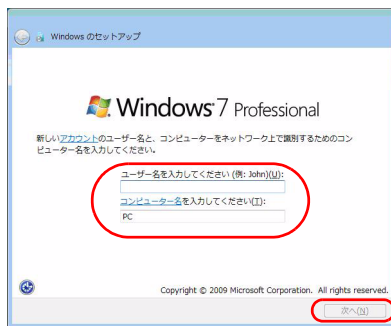
...

補足

はじめて電源を入れるときは、セットアップが完了するまで、クライアントモジュールを長時間放置しないでください。
電源の入れかた→『ユーザーズガイド』3章の「FLORA bd の接続と電源の入れかた」

使用許諾契約に同意しよう

- 1 [Windows のセットアップ] の [新しいアカウントのユーザー名と、コンピューターをネットワーク上で識別するためのコンピューター名を入力してください] 画面で、[ユーザー名] と [コンピューター名] を入力する。



...

補足

- Windows 起動時は、ディスプレイの周波数を変更しているため、画面が乱れることがあります。
- 画面に表示されている矢印を、「マウスポインター」と呼びます。
- マウス左側のボタンを 1 回押すことを、「クリック」といいます。
- コンピュータ名は初期設定後でも変更できます。

補足

日本語を入力するには

- 1 [半角 / 全角] キーを押し、日本語入力にする
- 2 ローマ字で読みがなを入力する
- 3 目的の漢字になるまでスペースキーを押す
- 4 [Enter] キーで確定する

2 [次へ] ボタンをクリックする。

[ユーザーアカウントのパスワードを設定します] が表示される。

3 [パスワード] (省略可能) を入力し、[次へ] ボタンをクリックする。

[ライセンス条項をお読みになってください] が表示される。

4 [ライセンス条項に同意します] にチェックをつけて、[次へ] ボタンをクリックする。

[コンピュータの保護と Windows の機能の向上が自動的に行われるように設定してください] が表示される。

5 【推奨設定を使用します】を選択し、クリックする。



【お使いのコンピュータの現在の場所を選択してください】が表示される。

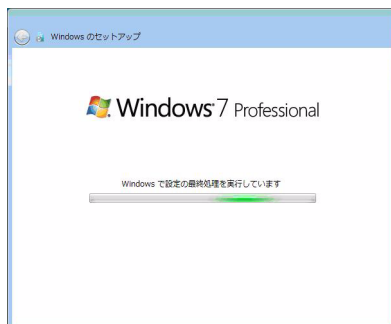
6 使用環境に応じて、【ホームネットワーク】、【社内ネットワーク】、【パブリックネットワーク】から選択し、クリックする。



補足

この設定値を保存するには、その接続のデフォルトゲートウェイを設定する必要があります。デフォルトゲートウェイの設定には、DHCPを使用することも可能です。

【Windows で設定の最終処理を実行しています】画面が表示され、セットアップが開始される。



終了すると、Windows のデスクトップが表示される。

電源を入れ直す

Windows の使用許諾契約などが終わったら、電源を切ります。そのあと、もう一度電源を入れて、デスクトップ画面が表示されることを確認します。



電源スイッチを 4 秒以上押さないでください。Windows が強制終了されます。その場合、異常終了と判断され、次回起動時にチェックプログラムが動くことがあります。異常がない場合は、そのあと正常に Windows が起動します。



- 電源スイッチを 4 秒未満押しても、手順 1～3 の操作と同じように電源は正しく切れます。
- 工場出荷時の設定では、20 分以上電源を入れた状態で放置すると節電状態になり、画面の表示が消え、キーボードやマウスを操作しても復帰しなくなります。このときは、電源スイッチを押すと復帰します。

電源を切る

電源を切る操作はとても大切です。電源は、この操作で切ってください。

- 1 [スタート] ボタンをクリックする。
- 2 [シャットダウン] をクリックする。

しばらくするとクライアントモジュールの電源が切れ、電源ランプが赤色になる。

電源を入れ直す



クライアントモジュールの起動時にキーボードを連打したり、押し続けたりしないでください。エラーメッセージが表示される場合があります。



- Windows のスタート画面が消えたあと、「Windows を起動しています」画面からデスクトップ画面が表示されるまで時間がかかる場合があります。デスクトップ画面が表示されるまで、しばらくお待ちください。ディスプレイによっては、時間がかかる場合もあります。
- ディスプレイによっては、画面が中央に表示されないことがあります。このようなときは、ディスプレイに付属のマニュアルを参照し、画面表示を調整してください。
- Windows 起動直後には、ディスプレイの周波数を変更しているため、画面が乱れることがあります。
- クライアントモジュールに接続するユーザ端末側で、画面解像度や表示させるディスプレイによっては、Windows 画面が表示されない場合があります。

- 1 クライアントモジュール前面の電源スイッチを押す。
[ようこそ] 画面が表示される。
- 2 ログオンするユーザーのアイコンをクリックする。
パスワードが必要な場合は、パスワードを入力して [→] ボタンをクリックする。
Windows が起動し、デスクトップ画面が表示される。

2

システムの運用と管理

この章では、1つのネットワーク構成例を元に、システムを運用するための設定について説明します。

ネットワーク構成	8
運用開始に必要な設定	9
FLORA bd で IPMI を使用するには	12

ネットワーク構成

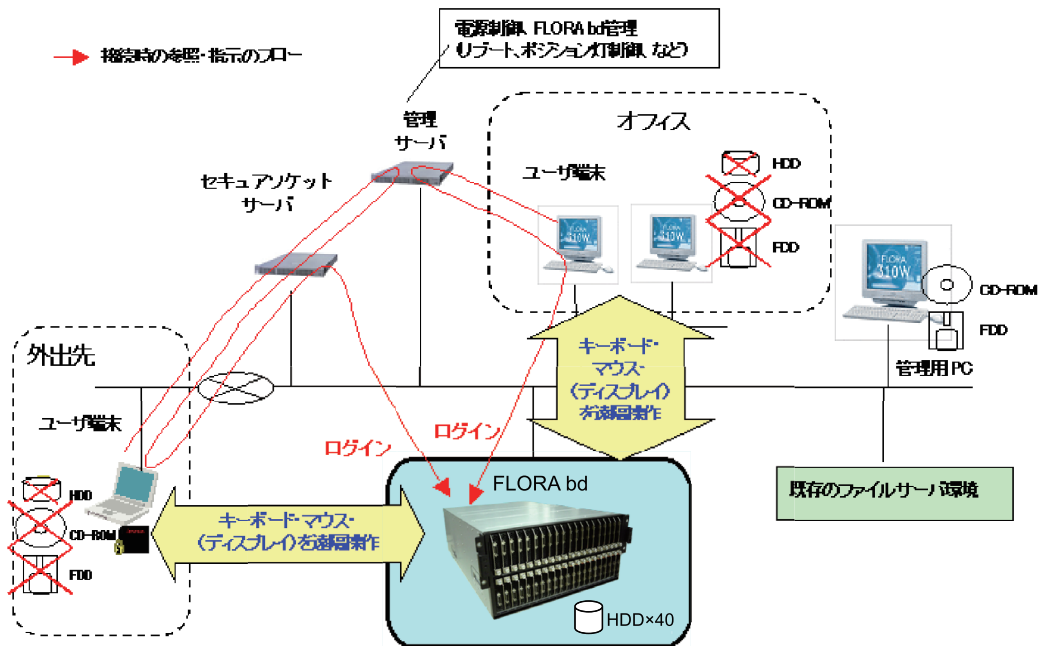
FLORA bd を活用すると、次のようなネットワークを構成することができます。

高いセキュリティを持つ、ネットワークシステムが構築できます。

ネットワーク構成例

ネットワークを構成するためには、FLORA bd（本マニュアルの説明部分）やユーザ端末側でいろいろな設定が必要です。

このマニュアルでは、FLORA bd で必要な設定を説明します。



運用開始に必要な設定

クライアントモジュール毎の Windows のネットワーク設定とユーザ端末からリモートでの電源制御に必要な設定を行います。

Windows のネットワーク設定

LAN1 の設定を行います。クライアントモジュールには LAN1 と LAN2 の2つの LAN ポートがあり、通常は LAN1 しか使用しません。

LAN2 を使用する場合は、LAN1 を参考に設定してください。



- 設定後、「ハードウェアのネットワーク設定」をしてください。設定しないと正常に動作しません。
- LAN1 ではなく LAN2 を使用すると、ユーザ端末からリモートの電源制御ができません。
- LAN1 と LAN2 で冗長構成を組むことはできません。

- 1 [スタート] - [コントロールパネル] - [ネットワークとインターネット] - [ネットワークと共有センター] をクリックする。
- 2 [ネットワークと共有センター] 画面左側の [アダプターの設定の変更] をクリックする。
- 3 [ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックする。
[ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] ボタンをクリックする。
- 4 [ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログの [インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)] を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックする。



LAN2 の設定の場合は、[ローカルエリア接続] の代わりに、[ローカルエリア接続 2] を選択します。表示も [ローカルエリア接続 2 のプロパティ] となります。

- 5 [インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ] ダイアログで固定 IP アドレスなどの必要事項を設定し、[OK] ボタンをクリックする。



[ローカルエリア接続] は、[IP アドレスを自動的に取得する] の設定にしないでください。クライアントモジュールを特定できなくなります。固定 IP アドレスにしてください。

- 6 [ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログの [OK] ボタンをクリックする。

ハードウェアのネットワーク設定

クライアントモジュールにネットワーク情報を設定します。



- 設定する IP アドレスは、Windows 上で設定する IP アドレス (LAN1、LAN2) と同じ値にしないでください。正常に通信できなくなることがあります。
- 本設定を実施する前に、クライアントモジュールとそれに対応する内蔵 LAN スイッチモジュールが搭載されていることを確認してください。

- 1 [スタート] ボタン - [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [ファイル名を指定して実行] をクリックする。
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。
- 2 “C:\hitachi\programs\bmc-netset” と入力し、[OK] ボタンをクリックする。
[エクスプローラ] が起動し、上記フォルダが表示される。
- 3 “bmc-netset.exe” ファイルを右クリックし、[管理者として実行] をクリックする。
[ユーザーアカウント制御] 画面が表示される。
- 4 [はい] をクリックする。
次の画面が表示される。

ネットワーク設定ツール for HITACHI

IPアドレス : 192 . 168 . 0 . 1

サブネットマスク : 255 . 255 . 255 . 0

デフォルトゲートウェイ : 0 . 0 . 0 . 0

表示 書込み 終了

- 5 Windows の [ローカルエリア接続] に設定した固定 IP と異なる IP を入力し、[書込み] ボタンをクリックする。

しばらくして次の画面が表示されたら、[Enter] キーを押す



…
補足

画面に「失敗」と表示された場合は、手順 1 から再設定してください。

6 [終了] ボタンをクリックする。

FLORA bd で IPMI を使用するには

ユーザ端末からネットワークを経由して、FLORA bd の電源制御が行えます。制御するには IPMI(Intelligent Platform Management Interface Specification) v1.5 に準拠したコマンドを使用します。
WOL(Wake On LAN)機能と併用すると、ネットワーク経由で FLORA bd を起動することも可能です。

IPMI のコマンド

次のコマンドを利用し、ユーザ端末から電源の制御を行います。

No	制御内容	IPMI コマンド	コマンドの内容
1	存在確認	PING(RMCP level)	PING コマンド受信で、クライアントモジュールの存在を確認
2	主電源状態取得	Get Chassis Control	状態(主電源オン/オフ)の取得
3	電源制御	Set Chassis Control	クライアントモジュールの起動
			クライアントモジュールの強制終了
			クライアントモジュールの強制再起動
			クライアントモジュールのシャットダウン



- FLORA bd100A1, B2, A3, B3, A4, B4, B5 と同一のネットワーク環境では、LAN アナライザソフトなど、プロミスキャスモードの LAN 通信を有効にするソフトウェアは使用しないでください。使用した場合、同一ネットワーク上にある FLORA bd のリモート制御ができなくなることがあります。
- 通信ポート 623 および 664 は使用できません。FLORA bd500 シリーズでは、通信ポート 623 および 664 をリモート制御専用のポートとして使用しているため、ほかのアプリケーションなどでは使用することができません。
- OS の節電機能で「ディスプレイの電源を切る」の設定は「なし」にしてご使用ください。
節電機能によりディスプレイの電源がオフの状態、リモートから電源制御にてクライアントモジュールのシャットダウンを行っても、シャットダウンできません。
「ディスプレイの電源を切る」の設定は、[コントロールパネル] の [電源オプション] で設定できます。工場出荷状態では「ディスプレイの電源を切る」の設定は「なし」に設定されています。



次の状態のときは、WOL 機能は使用できません。
この場合は、IPMI の起動コマンドをご使用ください。
・強制終了したとき

WOL (Wake On LAN) の設定

ネットワークからクライアントモジュールを起動する信号が流れたときに、クライアントモジュールを起動させることができます。これを WOL (Wake On LAN) といいます。

制限

- 休止状態からの WOL による起動はサポートしていません。
- ARP オフロードおよび NS オフロードはサポートしていません。Magic Packet を送信することで起動させることが可能です。

補足

- 次の状態のとき、WOL 機能によりクライアントモジュールを起動できます。
 - ・スリープ状態
 - ・電源オフ状態
- クライアントモジュールを強制終了したときは、クライアントモジュールは起動しません。

□ WOL の設定手順

出荷時設定では、WOL での起動設定は無効になっています。必要に応じ設定してご使用ください。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[検索の開始] ボックス (プログラムとファイルの検索) に「ネットワークと共有」と入力して、[Enter] キーを押す。
[ネットワークと共有センター] が開く。
- 2 ナビゲーション ウィンドウの左上にある [アダプターの設定の変更] をクリックする。
ネットワーク接続の一覧が表示される。
- 3 WOL の設定を有効 (または無効) にするネットワーク接続を右クリックし、[プロパティ] をクリックする。
ネットワーク接続のプロパティが表示される。
- 4 [構成] をクリックする。
対応するネットワークアダプターのプロパティが表示される。
- 5 “スリープ状態” から起動させる場合、[電源の管理] タブで、[このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする] チェックボックスをオンにする。
起動させたくない場合は、チェックボックスをオフにします。

補足

スリープ状態から起動させるには、[詳細設定] タブで [Wake On Magic Packet] の設定をデフォルトの [オン] にしておく必要があります。

-
- 6 “電源オフ状態”から起動させる場合、[詳細設定] タブで [PME をオンにする] の設定を、[オン] に設定する。

起動させたくない場合は、[オフ] に設定します。

補足

Magic Packet を受信しても、BIOS 設定で [Wake on Lan from S5] が Enable に設定されていない場合、起動しません。BIOS の設定については、『ユーザズガイド』の 5 章「BIOS の設定」をご参照ください。

- 7 [OK] ボタンをクリックし、プロパティを閉じる。

3

ご購入時の状態に戻すには

クライアントモジュールをご購入時の状態に戻したいときは、セットアップし直します。使用中にエラーが何回も発生したり、立ち上がらないときも、セットアップし直してください。

準備する.....	16
一括セットアップする	17

準備する

次の準備を行ってください。

■ 必要なファイルをバックアップする

ご購入時の状態に戻すと、ご購入後に作成したファイルや、追加したアプリケーションなどが削除されます。記録可能なメディアに必要なファイルをコピーしてバックアップを行ってください。バックアップしたファイルを戻せるように元のフォルダなど保存先も控えてください。

■ ネットワークなどの設定を控える

ご購入時の状態に戻したあと、同じ環境で使う場合は、BIOS やネットワークの設定情報をメモしてください。

■ インターネットの設定を控える

ご購入時の状態に戻したあと、加入しているプロバイダに再び接続できるように、ユーザ名、パスワード、アカウント名など、インターネットの設定に必要な情報をメモしてください。通常は、契約時にプロバイダから送付された書類にこれらの情報が記載されています。その場合は必要ありません。

この後の作業の流れ

1 BIOS の設定をご購入時の状態に戻す。

…
補足

BIOS の設定を変更している場合は、『ユーザズガイド』を参照し、ご購入時の状態に戻してください。
詳細について→『ユーザズガイド』の5章「BIOS の設定」

2 一括セットアップする。

クライアントモジュールの HDD がご購入時の状態に戻ります。さらに、システムパーティションのサイズを変更したり、システムパーティションを購入時の状態に戻すこともできます。

詳細については「[一括セットアップする](#)」P.17 をご参照ください。

3 アプリケーションのインストールやネットワーク設定などを行う。

実際に使用している環境に戻すために、ネットワーク設定や使用するアプリケーションなどをインストールします。

詳細については2章「[システムの運用と管理](#)」P.7 をご参照ください。

一括セットアップする

ここでは『Product Recovery DVD-ROM (Windows® 7)』(以下、付属のディスク)を使用した一括セットアップ方法を説明します。これら付属のディスクから、一括セットアップを行うとドライブ C がご購入時の状態に戻ります。

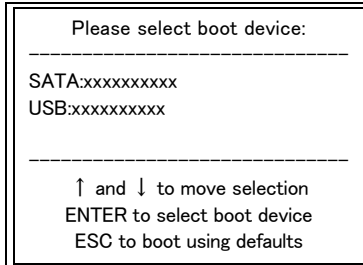
通知

セットアップし直すとハードディスクの内容はすべて削除されます。必要なデータは事前にバックアップをお取りください。

付属のディスクを使った一括セットアップ

- 1 クライアントモジュールの電源を入れ、クライアントモジュールの起動中、画面下部に「Press DEL to enter SETUP, F12 to enter BOOT MENU」と表示されたら、[F12] キーを押す。

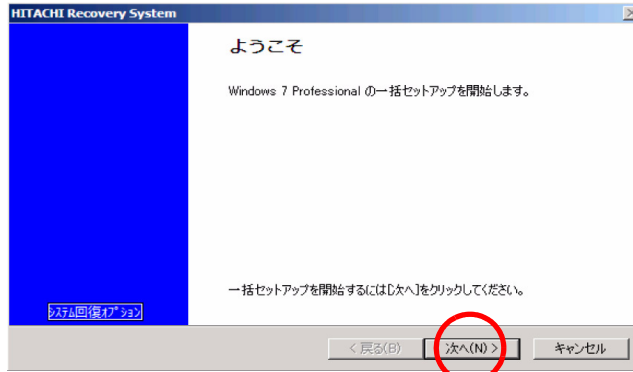
[Boot Menu] が表示される。



- 2 『Product Recovery DVD-ROM (Windows® 7)』を CD/DVD ドライブに入れる。カーソルを CD/DVD ドライブに合わせ [Enter] キーを押す。

[よろこぞ] 画面が表示される。

3 [次へ] ボタンをクリックする。



クライアントモジュールのチェックが行われ、チェック結果が正常の場合は、一括セットアップ方法の選択画面が表示される。

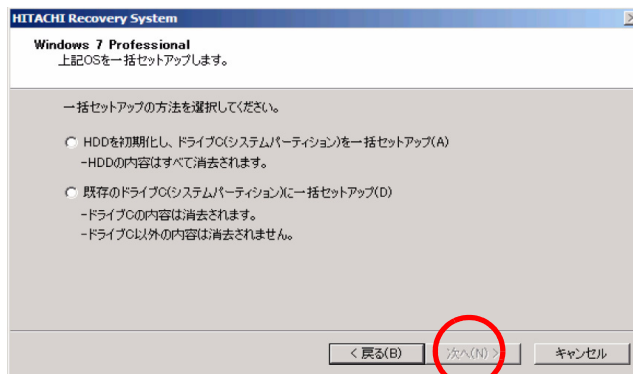
補足

- [システム回復オプション] をクリックすると、[システム回復オプション] 画面に移ります。
- 一括セットアップを中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。セットアップ中止の [確認] が表示されますので [はい] ボタンをクリックしてください。自動でクライアントモジュールが再起動します。

4 セットアップ方法を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。

セットアップ方法は、次の2つから選択する。

- (1) [HDD を初期化し、ドライブ C(システムパーティション)を一括セットアップ]
: こちらを選んだ場合は、手順5に進む。
- (2) [既存のドライブ C(システムパーティション)に一括セットアップ]
: こちらを選んだ場合は、手順8に進む。

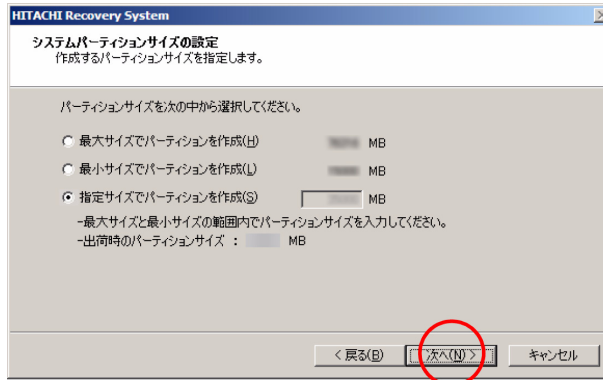


補足

[HDD を初期化し、ドライブ C(システムパーティション)を一括セットアップ] を選択した場合は、必要に応じてパーティションの設定を行ってください。

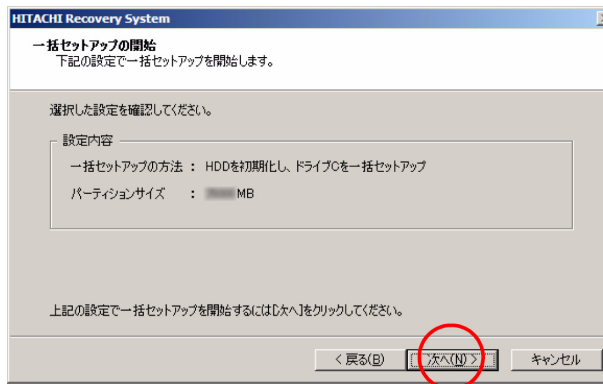
パーティションの設定について→ Windows のヘルプ

- 5 ドライブ C のサイズを選択し、[次へ] ボタンをクリックする。
 最大サイズで作成する場合は、[最大サイズでパーティションを作成] を選択する。
 最小サイズで作成する場合は、[最小サイズでパーティションを作成] を選択する。
 それ以外のサイズで作成する場合は、[指定サイズでパーティションを作成] を選択し、設定サイズ内でサイズを入力する。



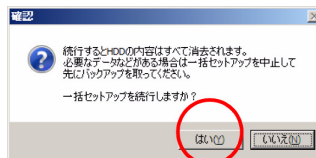
[一括セットアップの開始] 画面が表示される。

- 6 [次へ] ボタンをクリックする。



[確認] 画面が表示される。

- 7 [はい] ボタンをクリックし、手順 10 へ進む。



一括セットアップが開始される。

一括セットアップ終了後 [セットアップの完了] 画面が表示される。



制限

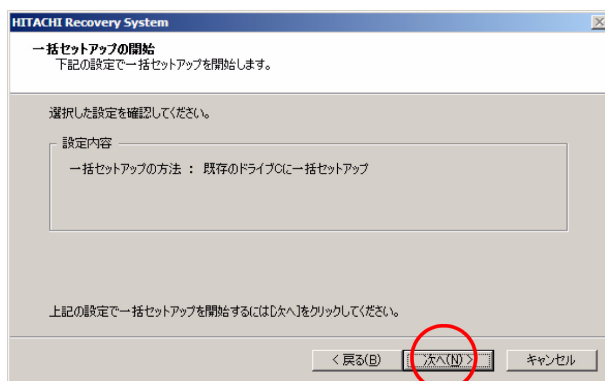
- [はい] ボタンをクリック後、HDD の内容はすべて消去されます。必要なデータなどがある場合は、セットアップを中止して、先にバックアップを取ってください。
- [はい] ボタンをクリックしたあとはセットアップを中止できません。



補足

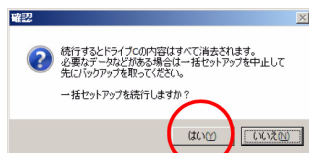
一括セットアップを中止する場合は、[いいえ] ボタンをクリックしてください。[いいえ] ボタンをクリック後、手順 6 に戻ります。手順 6 で [キャンセル] ボタンをクリックするとセットアップ中止の [確認] が表示されますので [はい] ボタンをクリックしてください。自動でクライアントモジュールが再起動します。

8 [次へ] ボタンをクリックする。



[確認] 画面が表示される。

9 [はい] ボタンをクリックする。



一括セットアップが開始される。

一括セットアップ終了後 [セットアップの完了] 画面が表示される。



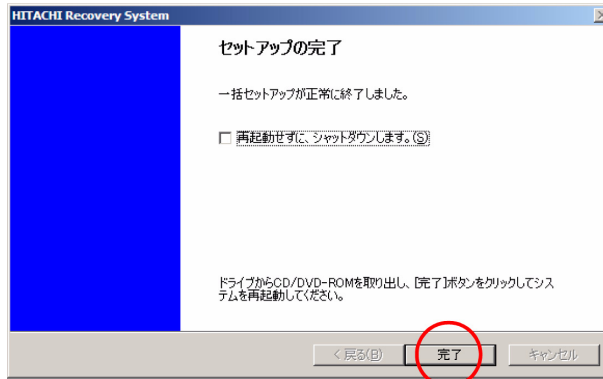
制限

- [はい] ボタンをクリック後、C ドライブの内容はすべて消去されます。必要なデータなどがある場合は、セットアップを中止して、先にバックアップを取ってください。
- [はい] ボタンをクリックしたあとはセットアップを中止できません。

補足

一括セットアップを中止する場合は、[いいえ] ボタンをクリックしてください。[いいえ] ボタンをクリック後、手順 8 に戻ります。手順 8 で [キャンセル] ボタンをクリックするとセットアップ中止の [確認] が表示されますので [はい] ボタンをクリックしてください。自動でクライアントモジュールが再起動します。

10 CD/DVD ドライブから DVD-ROM を取り出し、[完了] ボタンをクリックする。



クライアントモジュールが再起動する。

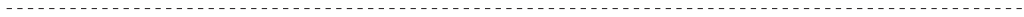
制限

- 一括セットアップ終了後、シャットダウンしたい場合は、[再起動せずに、シャットダウンします。] にチェックを入れ、[完了] ボタンをクリックしてください。
- シャットダウンした場合は、次回電源を入れたときに Windows のセットアップから開始します。

11 以降、Windows のセットアップ手順に従って、Windows 環境をセットアップする。

補足

セットアップ方法 → 1 章の「[使用許諾契約に同意しよう](#)」 P.2



— MEMO —

A series of horizontal dashed lines spaced evenly down the page, providing a guide for writing.

4

付属ソフトウェアについて

付属ソフトウェアの使い方やセットアップ方法を説明します。

付属ソフトウェア	24
----------------	----

付属ソフトウェア



付属ソフトウェアは、このクライアントモジュール以外では使用しないでください。正常に動作しないおそれがあります。
また、ドライバなどによっては、ハードウェア故障の原因になります。

ソフトウェアの種類

次のソフトウェアが付属されています。

- **Intel Chipset Software Installation Utility**
OS にチップセットを正確に識別させるためのユーティリティです。
- **表示ドライバ**
ディスプレイの画面表示を行うためのドライバです。
ディスプレイの色や解像度、リフレッシュレートなど、表示を細かく設定できます。



表示ドライバの解像度は、クライアントモジュールに接続するディスプレイ装置のサポートする解像度以上には設定しないでください。正しく表示されません。

- **LAN ドライバ (Gigabit ドライバ)**
LAN を使うためのドライバです。自動的に通信速度やモードを認識して最適な通信環境を設定します。
- **IPMI ドライバ**
クライアントモジュールに搭載されている管理コントローラ (BMC) にアクセスするためのドライバです。
- **Java Platform Standard Edition**
Java 言語で開発されたソフトウェアを実行するときに必要なアプリケーションです。
- **ネットワーク設定ツール**
リモートからの電源制御を行うために必要な設定を行うプログラムです。
設定方法については、「[ハードウェアのネットワーク設定](#)」P.10 をご参照ください。
- **FLORA bd ハードウェアモニタ設定**
次の 2 設定をするために必要なプログラムです。
 - ◆ ハードウェア内のログ情報を Windows のイベントログに表示させる。
 - ◆ Windows のハングアップなどの時に、ユーザ端末からの Windows 強制終了要求を受け付ける。



制限

「FLORA bd ハードウェアモニタ」をセットアップしていない場合は、ハードウェア内のログ領域がログ情報で一杯になると、新規ログは記録されません。その場合は、障害時の原因が特定できないことがあります。



補足

ハードウェア内のログ情報が一定数を超えた場合は、Windows のイベントログに表示した後、ハードウェア内のログ情報を削除します。

■ 省電力運用ソフトウェア「SAVINGDA Pro」試用版

あらかじめユーザーの設定したスケジュールによりコンピュータの電源管理を行い、省電力に役立つ機能を提供するソフトウェアです。「消費電力の削減」と「ユーザーの利便性向上」を両立します。

本ソフトウェアは、7日期限付きの試用版です。インストールしてから7日間使用できます。

詳しい使い方については、次のファイルをご参照ください。

C:\¥HITACHI¥Programs¥SAVDAPro¥SDAPROMAN.pdf



制限

- システムにインストールしているアプリケーションなどによっては、省電力モードを利用できない場合があります。
- アプリケーションおよびネットワーク利用環境によっては、省電力モードを利用できない場合があります。
- 省電力モードからの復帰に失敗した場合、編集中のデータを失う可能性があります。省電力モードに入る前には忘れずに編集中のデータを保存してください。
- 省電力モードにはスリープおよび休止状態の二つのモードがあります。SAVINGDA Pro のスケジュール機能は休止状態を利用しますが、OS の設定によってはスリープ動作となります。
- 本アプリケーションは省電力モードのスケジュール移行手段を提供するアプリケーションです。省電力モードの移行 / 復帰を保証するものではありません。

■ i-フィルター試用版

インターネットの情報をフィルタリングして、インターネット上の有害サイトや見せたくないサイトへのアクセスをブロックするフィルタリングソフトです。

本ソフトウェアは、30日期限付きの試用版です。インストールしてから30日間使用できます。

詳しい情報については次のデジタルアーツ社の Web サイトをご参照ください。

- ◆ ホームページアドレス：<http://www.daj.jp/cs/>

ソフトウェアの個別セットアップ

□ セットアップ済みのソフトウェア

次のソフトウェアは、出荷時状態セットアップ済みです。
再セットアップしたときにも、出荷時状態に戻ります。
個別セットアップする場合は、次の添付ファイルをご参照ください。

- Intel Chipset Software Installation Utility
c:\hitachi\drivers\INSTTXT\Win7\HIT_INF.txt
- 表示ドライバ
c:\hitachi\drivers\INSTTXT\Win7\HIT_VGA.txt
- LAN ドライバ (Gigabit ドライバ)
c:\hitachi\drivers\INSTTXT\Win7\HIT_LAN.txt
- IPMI ドライバ
c:\hitachi\drivers\INSTTXT\Win7\HIT_IPM.txt
- FLORA bd ハードウェアモニタ設定
出荷時状態でご使用ください。



個別セットアップを行うと、一括セットアップで組み込まれた場合と設定値が異なることがあります。



- 個別セットアップの順序は、
c:\hitachi\drivers\INSTTXT\Win7\Install.txt をご参照ください。
- 標準のDVD-ROM&CD-R/RWドライブ名は、アルファベットの順でHDDの次の文字（ドライブ文字）になります。あらかじめ、ドライブ名をご確認ください。

□ 未セットアップのソフトウェア

HDD にインストールされ、セットアップされていないソフトウェアがあります。必要に応じて、次の手順に従いセットアップしてください。

■ Java Platform Standard Edition

- 1 [スタート] ボタン - [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [ファイル名を指定して実行] をクリックする。
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。
- 2 “C:¥Hitachi¥Programs¥Java¥jre-6-oem-windows-i586.exe” と入力し、[OK] ボタンをクリックする。
[ユーザーアカウント制御] 画面が表示される。
- 3 [はい] ボタンをクリックする。
- 4 以降、画面の指示に従ってインストールする。

■ 省電力運用ソフトウェア「SAVINGDA Pro」試用版

- 1 [スタート] ボタン - [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [ファイル名を指定して実行] をクリックする。
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。
- 2 C:¥hitachi¥programs¥savgapro¥setup.exe と入力し、[OK] ボタンをクリックする。
[ユーザーアカウント制御] 画面が表示される。
- 3 [はい] をクリックする。
[使用許諾契約] 画面が表示される。
- 4 [同意します] ボタンをクリックする。
[本プログラムは、インストールしてから7日試用できる体験版です。]画面が表示される。
- 5 [OK] ボタンをクリックする。
[SAVINGDA Pro セットアップ] 画面が表示される。
- 6 [インストール] ボタンをクリックする。
[インストール先フォルダ選択] 画面が表示される。
- 7 [OK] ボタンをクリックする。
インストールが開始され、[インストールは完了しました] 画面が表示される。
- 8 [OK] ボタンをクリックする。

■ i- フィルター 試用版

- 1 [スタート] ボタン - [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [ファイル名を指定して実行] をクリックする。
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。
- 2 c:\hitachi\programs\i-filter\setup.exe と入力し、[OK] ボタンをクリックする。
[ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] ボタンをクリックする。
- 3 以降、画面の指示に従ってインストールする。

5

制限事項と参考

FLORA bd500 で Windows 7 を使用する場合の制限事項を説明します。

制限事項.....	30
-----------	----

制限事項

ここでは FLORA bd500 で Windows 7 を使用する場合の制限事項を説明します。
ご使用前にお読みください。

ブートパーティション

ブートパーティションと Windows パーティションを分けていません。

Windows 7 では、ブートパーティションと Windows パーティションを分けたパーティション構成にすることができますが、工場出荷状態では従来 OS モデルの仕様に合わせてパーティションを分けていません。

Windows RE

Windows RE イメージをインストールしていません。

WindowsRE イメージをインストールしていた場合、起動中にブルースクリーンなどで再起動が発生すると次回起動時に、WindowsRE の「スタートアップ修復」機能が起動します。その状態ではリモートから操作できないため、WindowsRE のイメージはインストールしていません。

スタートアップ修復など、WindowsRE の機能を使用したい場合は、「Product Recovery DVD-ROM」で起動し、[ようこそ] 画面において [システム回復オプション] をクリックしてください。

Windows Aero

本モデルは Windows Aero をサポートしていません。

ハイブリッドスリープ

本モデルはハイブリッドスリープ機能をサポートしていません。

休止状態からの起動

本モデルは WOL による休止状態からの起動をサポートしていません。

索引

■ F

FLORA bd を使用するには 12

■ I

IPMI のコマンド 12

■ P

Product Recovery DVD-ROM 17

■ W

Wake On LAN 13

Windows のネットワーク設定 9

■ い

一括セットアップ 17

■ こ

困ったときには v

■ さ

作業の流れ 16

■ し

重要なお知らせ iii

準備する 16

使用許諾契約 2

商標 iii

■ せ

制限事項 30

■ そ

ソフトウェア

FLORA bd ハードウェアモニタ 24

Intel Chipset Software Installation Utility 24

IPMI ドライバ 24

i-フィルター 25

Java Platform Standard Edition 24

LAN ドライバ 24

省電力運用ソフトウェア 25

セットアップ済みのソフトウェア 26

ソフトウェアの個別セットアップ 26

ネットワーク設定 24

表示ドライバ 24

付属ソフトウェア 24

未セットアップのソフトウェア 27

■ て

電源

入れ直す 5

入れる 2

切る 5

■ ね

ネットワーク構成例 8

■ は

ハードウェアのネットワーク設定 10

バックアップ 16

版權 iii

■ ま

マニュアルの表記

オペレーティングシステムの略称 iv


関連マニュアル iv

マーク iv

FLORA bd500
ソフトウェアガイド
500X8 Microsoft® Windows® 7 編

初 版 2011 年 6 月

無断転載を禁止します。

 **株式会社 日立製作所**
エンタープライズサーバ事業部

〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下1番地

<http://www.hitachi.co.jp>



再生紙

このマニュアルは再生紙を使用しています。

FB50082300-1